

「学校に要てこそその学校事務職員」 ～与えられる役目を越えて～

十勝管内小中学校事務職員協議会
池北線ブロック
柳平 真理子

1 はじめに

池田町と北見市を結ぶ旧国鉄池北線沿線の本別町・足寄町・陸別町の3町で構成される池北線ブロックでは、2014年度、私を含め3名の新採用者が配置され【「ブロック研修から学校づくりへ」～新採用者と歩調をあわせて～】と題し、協議会の研修体制の紹介や過去の研修概略、領域・学校間連携の説明と、新採用者に活動を伝えることに主眼を置いた研修が進められました。その中で講話を企画し、おふたりの校長先生から「校長の求める」事務職員像を、おふたりの先輩事務職員の体験等から「我々が目指す」事務職員像を、さらに、道教委主催の新採用事務職員研修の内容から「道教委(国)の思う」事務職員像を確認しました。

2016年度は「学校にいてこそできること」というテーマ研修を進めました。管内研での活発な議論から「私たちが学校に居る意味、それは【厚み】を出すこと(今、自分ができることを精一杯やる)ことで、(学校に「厚み」が生まれる)だからこそ、私たちは学校にいてこそその学校事務職員」と結論づけることができました。

これまで参加した様々な研修会で諸先輩がすすめてきた、たくさんの理論や実践を学ぶことができました。学校事務職員が学校に「居」ること。事務部があり、職員会議に参加し、子どものための提案を他の分掌と同列にできることを当たり前と感じていました。そんな「当たり前」ははじめからあったのではなく、先輩たちによって築きあげられたものなのだと気づくことができました。

そして「次のステップは何だろう?先輩たちの実践を引き継ぐ私たちに求められていることは何だろう?」と考えるようになりました。

世代交代が進んでいく今。

学校で、より活躍するために。

より必要とされるために。

【学校に「居」てこそ→学校に「要」てこそ】
の学校事務職員になるために。

先輩たちが築き上げてきた「学校事務職員」の今に感謝とリスペクトを込めて研修を進めました。

2 テーマ設定

ICT(情報通信技術)などの技術革新により様々な職種・業務が合理化してきたように、学校を取り巻く環境も変化してきています。私たちについても現在担っている定型業務はより簡素化やアウトソーシングも進んでいくことが予想されます。「無くなる仕事」「人工知能」等が話題になる昨今。今担っている業務を見つめ直し、質を高めると共に、新たな価値を見いだしていくことも必要です。

ある雑誌の記事で触れられていた「今後、私たちの職務に求められるであろう3つのスキル、企画力・調整力・改善力」に注目し、その力を磨くことを目的に、ブロック員が企画した講話をいただくことを計画しました。大切なのは、「企画し、調整し、失敗したら改善すること」です。

【企画力】 それは、志。

なんのために学校に「居」るのか、学校で何をするのか。学校を取り巻く環境の変化を感じ、新しい方向へ動かしていく力を身につけていくことが現在の問題解決、未来の問題解決へとつながります。考え抜く姿勢にこそ、企画力が表れます。自身の企画に対する強い思い、それこそが「志」。志のある職員は、人を動かし、周りを巻き込むことができると考えました。

【調整力】 それは、学校愛。

子どもたちに、学校に関わる全ての人たちに何かをしてあげたい。それは、かけがえない力です。その力を出し惜しみせず、使い切っていくために必要なものは、情報収集。自らを取り巻くすべての状況に興味を持ち、

必要であれば情報収集、準備に取り組みます。
「学校愛」がスムーズに仕事を進める上で必要な調整力を手助けできると考えました。

【改善力】 それは、失敗談。

新しいことにチャレンジしなければ、衰退していきます。様々な過去の経験談から学び、新しいチャレンジの中で失敗し、成長していきます。すべての失敗を自分で経験する時間はないので、周りの失敗からも学んでいきます。それが、学校で何をするか、への改善力へとつながっていくと考えました。

3 研修の具体的な進め方

- 誰から講話をしてもらおうのか考える

【企画力】



- 何を、どんな視点で話してもらおうのか。
そのために、私たちの研修について・学校への自分の想いを伝える

【調整力】



《 講 話 》



- 講話を受けて、自分の過去を振り返り、次へつなげる

【改善力】



《 共 有 》

- 「学校に要てこそ」の視点で付箋紙を利用し講師の志・学校愛を確認するグループワークと感想や自分自身の反省を共有する1分間スピーチ

この流れのなかで、私たちは

何のために生まれて 何をして生きるのか

を見いだしていきました。

4 研修のあゆみ

第1回ブロック研修から抜粋

講師 学校給食センター 調理員

講師依頼の理由

NPO 法人 21 世紀構想研究会主催、全国から 2004 校・施設が参加し、地場産品使用の献立や栄養価などを競う、「全国学校給食甲子園」に A 中学校に勤務する栄養教諭と A 町学校給食センター調理員さんが出場し、見事優勝しました。同僚である栄養教諭への講話依頼はすぐ思いつきましたが、優勝後たくさんのテレビや新聞の取材を目にする中で、調理員さんの声を聞くことがありませんでした。「日頃どんな思いで子どもたちに給食を作っているのだろう？」調理員さんの仕事に対する思い、熱意を聞いてみたいという思いから講師を依頼しました。

講話内容

給食センターに勤務して 15 年。調理員は、資格がなくても誰でもなることができる職種で、給食センターの中でも底辺といっても良いぐらいのポジションだという気持ちがある。代わりはいくらでもいるという状況の中で、自分に付加価値をつけていかなければという危機感を持って仕事をしている。

普段は子どもたちと直接関わる機会はなく、戻ってきた食缶の残食で反応を確認するしかない。給食は、子どもたちの成長に関わっているが、栄養価の高い給食を提供しても、食べてもらえなければ意味がないので、食べてもらえる、飽きない工夫など、日々試行錯誤を繰り返している。先生方から給食に対して様々な意見を頂くが、どんな時も「子どもたちのために」給食を作っているという部分だけはぶれないようにしたいと思っている。家での食事の次に口にする機会が多いのが給食。子どもたちの第 2 の母、2 番目の育ての親でありたいという思いで給食を作っている。子どもたちが家庭の味の次に思い出す味であり、家庭に次いで 2 番目に美味しいと思ってもらえることを目指している。

今後も、給食センターの中で自分自身が刺激となり、仕事をしていきたい。

〈講話・グループワークを踏まえた

「学校に要てこそ」のスピーチ〉

[A] 一番心に残っている言葉は、家庭の次に喫食するのが給食だから、家庭の味が1番で給食が2番目においしいと言われたという言葉。家庭が1番という部分はゆるぎがなく、2番目に給食というところが、自分の仕事とは何かがあった上で最大限努力がしたいという表現なのだと思います。自分に置き換えた時に、学校は授業が1番で、2番目に何がくるかということを考えて今もやもやしている状態。自分の立ち位置や、自分とは何かということを決めるところからやっていかないと、学校に要てこそ何も無いということを感じた。

[B] 今回の講話を聞くまで、Hさんがどのような立場で仕事をしているかということが不思議だった。正規の職員ではないのかもしれないが、自分にプライドと自信があるから、立場をこえた仕事をする事ができるのだと感じた。

[C] 子どもたちのためにという思いがすごく伝わってくる講話だった。自分が学校にいてこそ何かできることがないかという部分では、子どもたちや先生方の声を聞いて何かできることが少しでもあればいいなと思って聞いていた。

[D] 他職の方の話聞くことができる機会は滅多にないことだと思うので、貴重な時間だった。どの職種も自分でなければならぬという価値を見いだしていくことが重要だと思った。調理員さんは子どもたちと関わる時間がない中でも、子どもたちのために残食を減らす工夫などを行っている。自分は学校にいて、いつでも子どもたちと関

わりを持つことができる環境なので、その環境を生かして子どもたちのために自分ができることを探してやっていかなければならないと感じた。

～講話を終えて～

皆さんのスピーチから、【付加価値・第2の母】という言葉がとても印象深かったのだと感じました。子どもたちと関わる時間がない中でも、「子どもたちのために」という思いを第1に考えている姿に、学校に「居」る今の立場を当たり前と感じてしまっていることを少し反省しました。仕事へのプライドやモチベーションの高さなど立場を大きく越えて働こうという姿勢に大きな刺激を受けることができました。

～1年間のあゆみ～

☆講師依頼の理由 ★講話を終えて

第2回

【元中学校 事務職員】

- ☆私たちの今を創ってこられた方
- ・今置かれている場所
- ・学校の「要」として

【元中学校 養護教諭】

- ☆1人職種として共感できる部分
- ・言葉は、重い！
- ・チームワーク

★学校に勤務し、こどもと関わるということの重さを再認識することができました。また「目的意識」を明確に、受動ではなく能動的に仕事をしていくこと、それを職場全体へ投げかけていく姿勢の大切さに気づくことができました。

第3回

【元小学校 公務補】

- ☆10年間の勤務の中で感じたことを
- ・玄関は学校の顔
- ・町に負けないスケートリンク

★児童生徒・教職員・地域との信頼関係の大切さを改めて感じました。目配り・気配りを大切に、色々な声に耳を傾けていきたいです。

第4回	<p>【小学校 養護教諭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆与えられる役目以上に活躍する方 ・魔法の呪文 ・不登校児童との関わりから <p>★学校は、子どもたちが元気で楽しく過ごせる場所であってほしいという思いは、私たちとっても同じであり、子どもと接する際に気をつけることなど、仕事をする上で大切にすべきことを教えていただきました。</p>
第5回	<p>【小学校 事務職員】</p> <p style="text-align: center;">定年退職記念講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆「学校事務職員」としての歩みと後輩への思い ・初任時代について ・教育に関わる職員として ・教材整備への関わり <p>★37年分の「学校愛」「志」に触れることができました。新卒時代のお話しに「今」恵まれた環境にいることを感じました。過去の研修での出会いを大切に、情報収集を欠かさないことの大切さを学ばせていただきました。</p>
第6回	<p>【小学校 教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆子ども・保護者に寄り添う姿に ・一人職種になってみて ・職員の健康と職員の輪 <p>★常に職員のことを第一に考える姿勢・職員が一丸となっていればどんな状況でも苦ではないという言葉から、職員の輪を意識していかなければならないと思いました。</p>
第7回	<p>【小学校 PTA 会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆皆を巻き込む積極的な活躍に ・PTA 会長の印象 ・子どもたちのために… ・同志として <p>★アピールすること、会話をすること、一歩踏み出すことなど、力強いメッセージで背中を押していただきました。子どもたちのために、もっと楽しく、もっと熱く学校に関わっていきたいと思いました。</p>

第8回	<p>【小学校英語講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆学校職員以外の指導者として ・オーストラリアでの思い出 ・先生たちはすごい <p>★子どもたち一人ひとりに向き合うことの大切さを再確認し、人との関わりの中で、色々なことを吸収していきたいと思います。</p>
第9回	<p>【歴史民俗資料館 館長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆様々な団体と折衝する方 ・平和の種まき、読書の種まき ・資料、事業、人から学ぶ <p>★成果がすぐ見えないことでも、情熱を持って良い仕事をする事「種まき」の大切さを知りました。</p>

5 まとめ

池北線ブロックは昨年度 10 名で活動した十勝の中で1番少人数のブロックです。また、その内半数以上が期限付や勤務4年未満の若年層で、この研修を企画した段階では、充実した活動になるか正直、不安がありました。頼みやすい校長先生や仲の良い先生の講話が続くことを危惧していましたが、ブロック員それぞれが、【企画力】を発揮して、素晴らしい講話が実現しました。

元公務補さんは「人前でしゃべるのは苦手だけど〇〇さんの頼みなら」と依頼者との信頼関係から引き受けてくださり、給食調理員さんはお礼を兼ね研修のまとめを持参したところ「普段スポットの当たらない私たちに注目してくれたうえ、話した以上の思いを感じてくれて…」との感想を伝えてくれました。講師選定に悩んだ苦勞が報われると共に、自らの「志」を強く意識するようになりました。

PTA 会長さんとの最後の打ち合わせでは、「事務職員のみなさんの向いている方向は同じなのかい？」という質問を受けたそうです。保護者・教員と同様に「子どものために」という同じ方向を見据え、現状をよりよくしていくことを求められていることに改めて気づかされました。ブロック員それぞれが、「学

校愛」を土台に私たちの研修について考え、伝えるために講師の方と話し合った【調整力】では、これ以外にもたくさん気づきと成果があったと思います。

講師の方々の「志」「学校愛」に触れることで、私たち自身の「志」を高め、「学校愛」を育てることができました。最初は手探りだったグループワークと1分間スピーチは、回を重ねる毎に【改善力】が高まり、それぞれの「失敗談」にも気づけるようになりました。その集大成として、ブロック員それぞれが《一番心に響いた言葉・フレーズ》を振り返り、そこから《“私の”志》《“私の”学校愛》を表現することができました。【別紙資料】

志の中では「先生とちがう」という言葉が出されました。私たちには、教員とは違うからこそできることがあります。小中の区別無く異動できるなど様々な経験や、そこで知り合った仲間から学ぶことで色々な引き出しが増え、仕事の幅を広げ、質を高めることができます。全員に共通していることは「この学校をより良くしたい。」という【志】だと思います。

学校愛では、「子どもたちのために／ためなら」そんな言葉が出されました。子どもとの関わりを意識してこの仕事に就かれた方も多くいらっしゃると思いますが、漠然とした公務員の括りで志望した方もいらっしゃると思います。しかし、資格がなくてもできる仕事だからこそ【学校愛】を持つことが、学校に必要とされる職員には不可欠な要素だと、強く感じることができました。

今回の研修を通じて、これまで以上に先輩たちが築きあげてきた「今」に重みを感じ、「感謝とリスペクト」の想いが強くなりました。今後、言葉にできたそれぞれの志と学校愛を具体的に勤務校で形にしていく活動が、先輩たちの実践を引き継ぐことになり、ひいては学校に「要」てこそその学校事務職員に繋がっていくと信じて活動していきます。

＝研修部長のつぶやき＝

初めての研修部長。戸惑いと不安だらけのスタートでしたが、頼りない私を特に期限付の方々が素晴らしい企画と100%の参加率で助けてくれました。

第1回 調理員さんは、講話だけでなく、給食センター長のご協力もあり、給食甲子園優勝メニューのデザートまで試食させていただきました。

第4回 今年度退職を控える養護教諭の講話を是非聞きたいと、会場校の校長先生、教頭先生も講話に参加してくれました。管理職が事務職員の研修を見に来るということは、先輩達にとっても記憶にないとのことでした。

第6回 教頭先生には、なぜこのような取り組みをしているのかという質問を投げかけられました。私たちの取り組みに興味を示してくれ、研修会終了後に送った礼状への返信では、私たちのことを研修テーマを引用して「要なくてはならない大切な存在」と表現していただきました。

第7回 PTA 会長さんの講話では、講話後の話し合いにも「参加していいよ」とまでおっしゃってくれ、校長先生は写真撮影にいらっしやいました。残念ながら学校だよりには採用されませんでした・・・

素晴らしい講話を紹介したいと、講話のまとめを勤務校の給湯室掲示板に貼り出すと、「面白いことやっているんだね」と声をかけられました。教頭先生は、ブロック研修案内を受け付ける毎に、「次の講師は誰？」と話題にしてくれました。この研修は、私たちのこれからを考える糧になったことはもちろん、私たちの活動を職場に伝えることにもつながりました。

たった10名のブロックですが、10名の講師の方のお力を得ることができ、ブロック員それぞれの志と学校愛を形にできた1年間。1番うれしいことは研修部長として「楽しかった」と言えることです。